



H.Suga

THE MARCH STAKES

第32回 マーチステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 38,000,000円 15,000,000円 9,500,000円 5,700,000円 3,800,000円
付加賞 539,000円 154,000円 77,000円



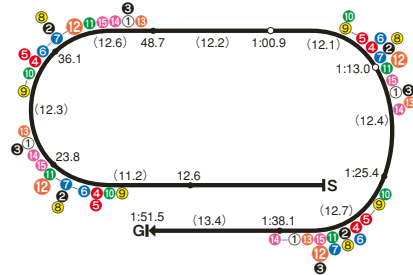
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、2024.3.23以降2025.3.23まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ

2025.3.30 中山 晴・稍重 グ1800m (国際) 指定

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	ブライアンセン	牡 5	57.5	岩田望来	1:51.5	6-7-6-4	37.9	514(-6)	4.6②	斎藤 誠(美浦)	109
2	④	マテンロウスカイ	騾 6	59	横山典弘	クビ	4-4-1-1	38.6	480(-2)	35.3⑨	松永幹夫(栗東)	111
3	①	ロードクロノス	牡 4	57	藤岡佑介	クビ	2-2-3-2	38.4	480(-2)	2.6①	四位洋文(栗東)	106
4	④	ブレイクフォース	牡 6	57.5	菅原明良	1	12-12-11-11	37.7	492(-10)	36.8⑩	中館英二(美浦)	105
5	⑤	ホウオウルーレット	牡 6	57	田辺裕信	1¼	12-12-13-13	37.8	500(+6)	16.2⑥	栗田 徹(美浦)	
6	⑥	ハビレ	牡 4	57	三浦皇成	½	11-11-11-11	38.1	506(-4)	8.8④	武井 亮(美浦)	
7	⑦	ミッキータチバナ	牡 7	58	丹内祐次	1½	8-8-8-7	38.5	518(-4)	13.2⑤	高橋 亮(栗東)	
8	①	ダノンスコーピオン	牡 6	59	大野拓弥	クビ	6-6-6-7	38.8	462(-4)	72.9③	福永祐一(栗東)	
9	⑤	ベイシャエス	牡 6	59	横山和生	クビ	5-5-5-4	39.0	500(-3)	5.8③	小西一男(美浦)	
10	⑨	ヴァンヤール	牡 7	58	石川裕紀人	1½	15-15-14-14	38.1	532(+2)	36.0⑩	庄野靖志(栗東)	
11	⑬	ピュアキアン	牡 4	55	吉田 豊	2	1-1-2-3	39.9	510(-2)	18.2⑦	竹内正洋(美浦)	
12	⑧	ストライク	牡 5	55	石橋 脩	2	8-8-8-9	39.6	500(+2)	54.3②	加藤士津八(美浦)	
13	②	キノリユーオー	牡 7	57	原 優介	ハナ	8-8-8-9	39.6	474(±0)	128.9④	萱野浩二(美浦)	
14	③	スレイマン	牡 7	57.5	戸崎圭太	クビ	2-2-3-4	40.1	542(-6)	19.4⑧	池添 学(栗東)	
15	⑩	コパノニコルソン	牡 6	55	内田博幸	2	14-14-14-15	39.2	536(±0)	289.7⑮	宮 徹(栗東)	

単勝④460円(2½倍) 複勝⑩180円(2½倍) ⑩770円(12½倍) ①160円(1½倍) 枠連⑦-⑧910円(3½倍)
馬連②-③9,530円(36½倍) ワイド②-③3,180円(41½倍) ①-②570円(3½倍) ①-③2,920円(37½倍)
馬単②-④16,320円(61½倍) 3連複①-②-③14,420円(54½倍) 3連単②-④①106,330円(356½倍)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
36.1 - 48.7 - 1:00.9 50.6 - 38.5

アラカルト

- ・岩田望来騎手はマーチS初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算15勝目
- ・斎藤誠調教師はマーチS初勝利。JRA重賞はフルデブスリーダーで制した22年エルムSに続く通算11勝目
- ・ホッコータルマエ産駒はJRA重賞初勝利
- ・5歳馬の勝利は24年ヴァルツァーシャルに続く通算13回目
- ・ストライクは競走中に疾病(鼻出血)を発症

ブライアンセンス Brian Sense

牡 黒鹿毛 2020.3.16生
北海道浦河町 谷川牧場生産
馬主・林正道氏 美浦・斎藤誠厩舎
馬名意味・母父名より+感覚

オリジナルスピIRE系 F22-a

ホッコータルマエ 鹿毛 2009	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	マダムチェロキー 鹿毛 2001	Cherokee Run アンフォイルドUSA
ヒラボクビジン 黒鹿毛 2007	ブライアンズタイムUSA 黒鹿毛 1985	Roberto Kelly's Day
	オリジナルスピIRE 鹿毛 1997	Machiavellian
		Not Before Time

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×M4

INTERVIEW

谷川寿郎専務(谷川牧場)

見栄えのする馬体で、体力がある馬でした

地道な努力の積み重ねがこの勝利につながったと思います。斎藤厩舎の皆さんや、この馬に関わったすべての方々に感謝いたします。兄妹は薄い体形の馬が多かったので、当時はまだ評価が出ていませんでしたがホッコータルマエをつけました。生まれてきた本馬は幅があり見栄えのする馬体で、負荷がかかる放牧地でも走り回っているような、とても体力がある馬でした。

R.Kaji



1年前の雪辱を果たした。見事に乗って挑んだ重賞も連勝し、見事に1年前の雪辱を果たした。

3歳6月のユニコーンSで3着に食い込んだ本馬は同年の秋に2勝クラス戦、3勝クラス特別を連勝してオープン入り。昇級初戦の東海Sでも4着に好走し、続くマーチSでは1番人気の支持を集めた。このときは、壁に跳ね返された格好で6着に敗れたものの、5歳を迎えた今年の初戦・アルデバランSでオープン初勝利をマーク。勢いに乗って挑んだ重賞も連勝し、見事に1年前の雪辱を果たした。

父ホッコータルマエ

北海道浦河町 市川ファーム生産 中央、地方、首39戦17勝(チャンピオンズC_{G1}、東京大賞典_{G1}2回、JBCクラシック_{J_hI}、帝王賞_{J_hI}2回、川崎記念_{J_hI}3回、かしわ記念_{J_hI}、アンタレスS_{G_m}、レパードS_{G_m}、名古屋大賞典_{J_hIII}、佐賀記念_{J_hIII}、フェブラリーS_{G1}2着、東京大賞典_{G1}2着)、最優秀ダートホース、ダートグレード競走特別賞3回、17年から供用

〔代表産駒〕**ブライアンセンス**(本馬)、**ブリッツファング**(兵庫チャンピオンシップ_{J_hII}、ジャパンダートダービー_{J_hI}3着)、**レディバグ**(スパーキングレディーC_{J_hIII}、コーラルS・L、栗東S・L)、**メイショウフンジン**(佐賀記念_{J_hIII}、ブリリアントS・L、仁川S・L)、**ゴライコウ**(JBC2歳優駿_{J_hIII})、**カシマエスパーダ**(鳳雛S・L、不來方賞_{J_hII}2着)

母ヒラボクビジン

北海道浦河町 谷川牧場生産 中央26戦4勝(初荳賞)、23年死亡
マイネルストラトス(14 牡父ディーブスカイ)中央31戦2勝、障害2戦0勝、地方48戦6勝

アイリッシュビート(15 牝父ハーツクライ)中央9戦1勝、地方2戦0勝
エンデミオン(17 牡父ヴィクトワールピサ)中央32戦4勝(桑名S、北海H、燕特別)、障害15戦2勝 ⑩
デアマローネ(18 牝父ダイワメジャー)地方6戦0勝
ミエノナイスガイ(19 牡父クロフネUSA)中央20戦1勝、地方6戦1勝

ブライアンセンス 本馬(20 牡父ホッコータルマエ)中央14戦6勝(マーチS_{G_m}、アルデバランS_{Op}、花園S、ユニコーンS_{G_m}3着)
獲得総賞金133,736,000円

ワンバット(21 牡父シニスターミニスターUSA)中央10戦3勝(阿見特別) ⑩
オリジナルファイン(22 牝父パイロUSA)中央2戦0勝 ⑩
※16、23(不受胎)

祖母オリジナルスピIRE

英2勝。05年輸入、23年死亡
ソルモンターレ(06 驕父ブライアンズタイムUSA)中央2勝、地方1勝
ヒラボクビジン(07 前出)

インカンテーション(10 牡父シニスターミニスターUSA)中央10勝(武蔵野S_{G_m}、マーチS_{G_m}、平安S_{G_m}、みやこS_{G_m}、レパードS_{G_m}、BSN賞_{Op}、ラジオ日本賞_{Op}、フェブラリーS_{G1}2着、フェブラリーS_{G1}3着)、地方1勝(白山大賞典_{J_hIII}、かしわ記念_{J_hI}3着、かしわ記念_{J_hI}3着)、種牡馬スピナッチ(11 牝父ゼンノロブロイ)中央3勝(加古川特別)

1年前の雪辱を果たし重賞初制覇

ダートのハンデ重賞・マーチSを制した4歳馬は2014年のソルルが最後、対して最近10年間はともに4勝を記録している5歳馬と6歳馬の活躍が目立つ。昨年8月の未勝利戦から破竹の4連勝と勢いに乗って重賞へ駒を進めてきた4歳馬ロードクロンヌが断然の支持を集めた今年のレースも、近年の傾向通りに決着。年長馬の壁を突き破れなかった同馬は3着に敗れ、対抗候補と目されていた4歳馬ブライアンセンスが初の勲章を手にした。

ゲートが開くと包まれるのを嫌い、最内枠から積極的に飛び出したロードクロンヌがまずは先頭に立ったが、外めの枠を引いたビュアキアンも譲らずに主張し、1コーナーで主導権を奪取。ロードクロンヌは好位に控え、隊列が定まる。トップハンデタイの59kgを課されたダート重賞3勝の実力馬ベイシヤエスは5番手を追走。ブライアンセンスの岩田望来騎手も同正面でその直後につけ、上位人気の3頭は前のポジションで流れに乗った。

ビュアキアンはベースをあまり緩めずに飛ばしたものの、芝のGⅡ(中山記念)ウイナーでダート初参戦の6歳馬マテンロウスカイが3コーナーでこれをかわして先頭へ。直線半ばでは4コーナーからリードを広げにかかったマテンロウスカイと、早めに反撃したロードクロンヌが先頭を争う形勢となる。対して勝負どころの反応が鈍く、少し水を開けられたブライアンセンスだったが、直線に向くと岩田騎手の叱咤激励に添えて息の長い末脚を発揮。ジリジリと、しかし着実に差を詰め、前の2頭をキッチリと捉えきった。

3歳6月のユニコーンSで3着に食い込んだ本馬は同年の秋に2勝クラス戦、3勝クラス特別を連勝してオープン入り。昇級初戦の東海Sでも4着に好走し、続くマーチSでは1番人気の支持を集めた。このときは、壁に跳ね返された格好で6着に敗れたものの、5歳を迎えた今年の初戦・アルデバランSでオープン初勝利をマーク。勢いに乗って挑んだ重賞も連勝し、見事に1年前の雪辱を果たした。